

学校適正配置のシミュレーション【本埜中学校区】(案)

項目	本埜小学校	本埜中学校
①所在地	印西市中根1281-2	印西市笠神250
②開校年	平成31年	昭和22年
③普通教室保有数	総数8教室	総数7教室
④児童生徒数の推移	R4:84名→R10:85名 ※1名の増	R4:18名→R10:35名 ※17名の増
⑤通常学級数の推移	R4:6学級→R10:6学級 ※増減なし	R4:2学級→R10:3学級 ※1学級の増
⑥特別支援学級数の推移	R4:2学級→R10:2学級 ※増減なし	R4:2学級→R10:2学級 ※増減なし
⑦学校規模の推移	R4:小規模→R10:小規模	R4:小規模(過小)→R10:小規模(過小)
⑧通学区域 ※遠距離通学者は、 R4.5.1時点の在校生	・東西:約8.0km ・南北:約6.6km ・遠距離通学者:直線約4.0km 道路約9.8km ※スクールバス利用者のため、道路はバス ルートを基に算定	・東西:約8.0km ・南北:約6.6km ・遠距離通学者:直線約3.3km 道路約4.4km
⑨スクールバスの運行	あり	なし
⑩学区外就学の状況(出) ※各年5月1日現在 ※学区の児童生徒数は 4月1日現在	R4:34名/学区の児童数:122名 (割合:約27.9%) R3:34名、R2:36名 主な就学先:滝野小	R4:42名/学区の生徒数:60名 (割合:約70.0%) R3:35名、R2:22名 主な就学先:滝野中
⑪学区外就学の状況(入) ※R4.5.1現在	1名 主な指定校:原小	4名 主な指定校:小林中、西の原中

<児童生徒数・学級数の推移>

学校名	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		令和10年度	
	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数
本埜小学校	77	6	83	6	87	6	86	6	88	6	92	6	85	6
本埜中学校	16	2	21	2	25	2	42	3	42	3	40	3	35	3

※児童生徒数及び学級数は、通常学級で整理している。

＜本埜中学校区における学校適正配置シミュレーション（案）の考察＞

実施方策	学校適正配置の組み合わせ	学校規模	施設受入面	特記事項
①通学区域の見直し				・本埜中学校区には、小学校が1校しかないため、本埜中学校区内での通学区域の見直しはできない。
②学校選択制の導入 (ブロック選択制)				・本埜中学校区には、小学校が1校しかないため、本埜中学校区内でのブロック選択制の導入はできない。
③学校選択制の導入 (特認校制)	本埜小学校における 小規模特認校制度の 導入			・令和5年度から実施する船穂小学校における小規模特認校制度の効果の検証が必要である。
④学校選択制の導入 (特定地域選択制)				・本埜中学校区には、小学校が1校しかないため、本埜中学校区内での特定地域選択制の導入はできない。
⑤学校の統合				・本埜中学校区には、小学校が1校しかないため、本埜中学校区内での小学校同士の統合はできない。
⑥学校の統合	本埜小+本埜中 ⇒新 義務教育学校 (施設一体型)	・前期課程 →小規模 ・後期課程 →小規模	本埜小：× 本埜中：×	・本埜小学校と本埜中学校を統合し、義務教育学校を新設しても、前期課程、後期課程とも適正規模化できないため、義務教育学校を新設するのは難しい。
⑦学校の統合	本埜小+本埜中 ⇒新 義務教育学校 (施設分離型)	→小規模 (過小)		

※施設受入面：○…受入学校の教室総数≥学校適正配置シミュレーション後のR10学級数+R10特別支援学級数

×…受入学校の教室総数<学校適正配置シミュレーション後のR10学級数+R10特別支援学級数

【参考】児童生徒数・学級数の推移（学校の統合後）

学校名	令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		令和10年度	
	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数
新 義務教育 学校(前期課程)	83	6	87	6	86	6	88	6	92	6	85	6
新 義務教育 学校(後期課程)	21	2	25	2	42	3	42	3	40	3	35	3
新 義務教育 学校(全体)	104	8	112	8	128	9	130	9	132	9	120	9

※児童生徒数及び学級数は、通常学級で整理している。

※R10 特別支援学級数：前期課程 2 学級・後期課程 2 学級